

2018年度「フィールド実習」一覧

2018年2月23日
文学学術院

名称 **中国語による入門演習——中国でコミュニケーションを実践する**

指導教員 **千野 拓政**

受入機関

上海大学中文系・文化研究系

費用

約16万円(旅行代金の変動に伴い、変更があり得る)

実習場所

中国上海市上大路55号上海大学中文系・文化研究系

活動期間

2018年10月1日～2019年1月28日(準備ゼミ)(8日間/計12時間)
2019年3月5日～2019年3月13日(実習)(9日間/計37.5時間)
(受け入れ機関の都合で変更の可能性あり)(総計17日間/49.5時間)

主な活動内容

- ①4日間午前中2コマ、担当教員の立ち会いの下に、上海大学の学生とともに上海大学の教授の中国語による語学授業を受ける。
- ②午後1コマ、中国人学生を相手にプレゼンテーション、コミュニケーションを行う。
- ③授業終了後2コマ、毎日一つ課題を設け、専門班と合同して、学内外で調査活動をおこなう。(例えば、上海の物価調査、学生生活インタビュー、上海各市区[旧県城、旧租界、建国後の開発区、近年の開発区など]の特徴の観察など。上海大学の学生が付きそう。)最終日に報告会を行い、成果を中国語で報告する。
- ④自由行動日を設け、グループに分かれて市内にでかけ、観察・調査を行う。調査対象は各グループが自己申告する。(5コマ)
- ⑤魯迅記念館、魯迅故居などを訪れ、解説員の中国語による説明を聞く。
- ⑥初級演習班の学生(1年生が主体)は、専門班と合同で調査活動を行うことで、パートナーシップの養成を図る。

評価方法 : ①秋期隔週開講の実習準備ゼミにおいて、リスニング、資料の解読、中国語による授業の受講を課す。与えられた課題をすべて終了することが求められる。
②上海での実習に参加し、中国語による授業、中国の学生相手のコミュニケーション、学内・市内での観察・調査活動を行う。(事前に授業の教材などは予習しておくことが求められる。)

募集時期 : 9月20日～10月1日(秋期科目登録開始日から面接当日まで)

選考方法 : 文学学術院で1年間中国語を履修した程度の語学力を有すること。ならびに秋期に隔週開講する実習準備ゼミに参加し、中国語による授業、リスニング、プレゼンテーションなどの訓練を受けたうえで、実習に参加すること。
10月1日(月)6限に千野研究室で面接選考を行う。

備考 : 実習準備ゼミは秋期・隔週月曜6限に千野研究室で行う。
海外への学生引率助成を申請の予定(毎年申請している)

2018年度「フィールド実習」一覧

2018年2月23日
文学学術院

名称 中国語による専門演習——中国で専門ゼミを実践する

指導教員 千野 拓政

受入機関

上海大学中文系・文化研究系

費用

約16万円(旅行代金の変動に伴い、変更があり得る)

実習場所

中国上海市上大路55号上海大学中文系

活動期間

2018年10月1日～2019年1月28日(準備ゼミ)(8日間/計12時間)
2019年3月5日～2019年3月13日(実習)(9日間/計37.5時間)
(受け入れ機関の都合で変更の可能性あり)(総計17日間/49.5時間)

主な活動内容

- ①4日間午前中2コマ、担当教員の立ち会いの下、上海大学の学生とともに上海大学の教授の講義を受ける。(講義内容は後日決定する。現代中国の文化・社会に関するテーマが中心となる)講義の最後に、午後の討論のための課題が与えられる。
- ②午後1コマ、課題に即して日中双方の学生が報告・討論する。
- ③討論終了後2コマ、毎日一つ課題を設け、入門班と合同して、学内外で調査活動をおこなう。(例えば、上海の物価調査、学生生活インタビュー、上海各市区[旧皇城、旧租界、建国後の開発区、近年の開発区など]の特徴の観察など。上海大学の学生が付きそう。)最終日に報告会を行い、成果を中国語で報告する。
- ④自由行動日を設け、グループに分かれて市内にでかけ、観察・調査を行う。調査対象は各グループが自己申告する。(5コマ)
- ⑤魯迅記念館、魯迅故居などを訪れ、解説員の中国語による説明を聞く。
- ⑥専門演習班の学生(2年生が主体)は、入門班と合同で調査活動を行うことで、リーダーシップの養成を図る。

評価方法 : ①秋期に隔週開講する実習準備ゼミにおいて、リスニング、資料の解読、中国語による討論を課す。与えられた課題をすべて終了することが求められる。
②上海での実習に参加し、中国語による講義、課題の報告、中国の学生との討論、学内・市内での観察・調査活動を行う。(事前に、講義の資料などは読んでおくことが求められる。)

募集時期 : 9月20日 ~ 10月1日(秋期科目登録開始日から面接当日まで)

選考方法 : 文学学術院で2年間中国語を履修した程度の語学力を有すること。ならびに秋期に隔週開講する実習準備ゼミに参加し、中国語による授業、討論リスニング、プレゼンテーションなどの訓練を受けたうえで、実習に参加すること。
10月1日(月)6限に千野研究室で面接選考を行う。

備考 : 実習準備ゼミは秋期・隔週月曜6限に千野研究室で行う。
海外への学生引率助成を申請の予定(毎年申請している)

2018年度「フィールド実習」一覧

2018年2月23日
文学学術院

名称 **沖縄で考える過去・現在・未来—平和とジェンダーと持続可能性**

指導教員 **高野孝子・金敬黙・豊田真穂**

受入機関

費用

琉球大学法文学部

約5-6万円(集合場所である那覇空港往復の交通費は含まない。集合してから期間中の交通費、宿泊費、プログラム費が含まれる)

実習場所

沖縄県那覇市、糸満市、国頭村ほか

活動期間

2018年6月22日、29日、7月20日、9月26日(事前・事後学習、4日間/計8時間)
2018年9月3日～2018年9月7日(実習)(5日間/計40時間)
(総計9日間/計48時間)

主な活動内容

本実習は、「沖縄」というフィールドにおいて、社会構築論系が目指す「過去に学び、現在を知り、未来を拓く」ことを実践する。参加者には、歴史的知見から現実の社会に存在する問題を見つけだし、それを解決するための力を養い、その力をもとにして実際の社会で実践的に活動できるようになってもらいたい。そのため具体的には、沖縄戦跡国定公園やガマなどを訪問し、日本にとって沖縄がどのように位置づけられたのかを確認すると同時に、現在もその構図は変わっていないこと、さらに日米関係によってそれが複雑化していることを体感するために、米軍基地の近くの街の様子を視察したり、米軍に関する情報公開を求める動きや、米軍の飛行場移転に伴う海の環境保全にあたる市民団体の卓話などを聞く。ついで国頭村に返還された米軍基地跡に建設された建物を拠点に、隣接する基地についての話を聞く。散策やカヌーなどで一帯の自然を体験し、生態系の重要性を理解するとともに、戦争や軍事拠点が環境を破壊する存在であることを認識する。事前学習を含め、フィールド実習中は毎日、軍隊、性暴力、オリエンタリズム、コロニアリズム、自然破壊など多様なテーマで討議を行い、考えを深め、整理して行く。

評価方法 : 事前学習時には、小テーマごとにリサーチし、中間報告の上でグループプレゼンを行う。実習参加後には、事後学習のあと、別途、公開の報告会を実施する。

募集時期 : 2018年4月10日-5月10日

選考方法 : 本実習に応募した動機を明示した志望理由書(600字以上)をもとに選考する。動機には、なぜ本実習に参加しようと思うのか、参加後の自己像をどのようにイメージしているか等を論述すること。学籍番号・所属コース/論系、氏名を明記の上、書式自由。
提出方法: 教員3名に宛てたメール添付で提出(高野: takano@aoni.waseda.jp、金: kimkmok@waseda.jp、豊田: maho.toyoda@waseda.jp)。
その後、面談をすることがある。面談日時は応募者と相談し、5月中に実施、決定する。

備考 :

2018年度「フィールド実習」一覧

2018年2月23日
文学学術院

名称 文化人類学フィールドワーク実習

指導教員 西村 正雄

受入機関

ラオス政府情報文化観光省

費用

総額26万5千円(航空券、宿泊費、食費、現地講師謝礼を含む)

実習場所

ラオス人民民主共和国のヴィエンチャン、パクセ、チャンパサック

活動期間

- ・現地における活動： 期間は、2018年8月3日(金)から8月15日(水)とする。実習の実質活動時間は、11日間/計55時間となる。
- ・事前授業： 早稲田大学文学学術院キャンパスにて行う。日程は6月23日(土)3時限から4時限;6月30日(土)3時限から5時限とする。
- ・事後授業： 1時限分をフィールド実習直後に、早稲田大学文学学術院キャンパスにて行う。

主な活動内容

本プログラムは、学部段階から、文化人類学的フィールドワークの実際のやり方について、フィールドの現地で、マンツーマン方式できめ細かく教育することを目指している。文化人類学は伝統的にフィールドワークの方法を洗練させてきた。その方法は、いかに現地の社会に溶け込み、内側から住民の目線で情報を得るかということである。この独特の方法について、現地(ラオスの地方)で学生一人一人に指導してゆくこと目的としている。

< 主な活動内容 >

8月3日 東京からラオスへの移動

8月4日 現地におけるオリエンテーション。ラオス政府関係者のあいさつと話を聞く。

8月5日 現地におけるオリエンテーション。ラオス政府関係者のあいさつと話を聞く。夕方、現地講師によるイブニングレクチャー

8月6日 午前:ヴィエンチャンからパクセへ移動。午後:パクセのラオスの会社に行き、地方経済について話を聞く。

8月7日 午前:パクセのラオスの会社に行き、地方経済について話を聞く。午後:パクセのマーケット調査。夕方、現地講師によるイブニングレクチャー

8月8日 午前:パクセからチャンパサックへ移動。チャンパサック世界遺産保存事務所でインタビュー調査。夕方、現地講師によるイブニングレクチャー。

8月9日 午前、午後:チャンパサックのゲストハウスなどでインタビュー調査。チャンパサックの観光についてインタビュー調査。夕方、現地講師によるイブニングレクチャー。

8月10日 午前、午後:チャンパサックの農村でインタビュー調査。夕方、現地講師によるイブニングレクチャー。

8月11日 午前、午後:チャンパサックの農村でインタビュー調査。夕方、現地講師によるイブニングレクチャー。

8月12日 午前、午後:チャンパサックの農村でインタビュー調査。夕方、現地講師によるイブニングレクチャー。

8月13日 午前、チャンパサックからパクセへ移動。後、パクセからタイのバンコックへ移動

8月14日 午前、午後:バンコックの観光調査。

8月15日 バンコックから東京へ移動。

その後 2018年8月中に事後授業を行い、フィールドワークの結果を記述する作業、すなわち民族誌としてまとめて、記述する作業について、学生指導する。またその際同時に、学生から規定の活動報告書を回収する。その後、9月1日(土)締め切りをもって、民族誌をレポートとして回収して成績評価を出す。

- 評価方法 : (ア) イントロダクション 6月23日(土)3時限
(イ) 文化人類学と文化人類学におけるフィールドワーク 6月23日(土)4時限
(ウ) ラオスについて 6月30日(土)3時限
(エ) 現代ラオスの概況 6月30日(土)4時限
(オ) フィールド地域について 6月30日(土)5時限
事前課題は授業形式でまず基礎知識をあたえる。それにとまって、学生に各時間ごとに読むべき資料を渡して、予習のための宿題としてそれをすべてフィールド実習までに読むことを課す。

募集時期 : 2018年4月-6月

選考方法 : 第1次選考として、科目を希望した理由を書いてもらい書類選考を行う(書式は西村研究室にて配付)。その後、面接による2次選考を行う。日程は以下の通り。

A. Web上での書類応募期間:2018年4月-6月

B. 書類選考期間:2018年6月21日-22日

C. 面接(2次選考):6月23日、24日。この両日中希望の時間。

備考 :